
アルバイトを通じた大学生のキャリア成長と企業メリットに関する研究

2020年10月 株式会社マイナビ 社長室HRリサーチ部×立教大学 経営学部准教授 舘野泰一

- ＜調査目的＞ 大学時代のアルバイト経験を振り返り、インターンシップで期待される成長（キャリア観醸成・社会人基礎力向上）に繋がるアルバイトの特徴を明らかにする。
またアルバイトを通じた大学生の成長を促すことによる企業メリットとの関係について整理する。
- ＜調査地域＞ 全国
- ＜調査方法＞ インターネット調査
- ＜対象者＞ 対象：4年制大学卒もしくは大学院卒者のうち、社会人歴が3年以内の正社員
- ＜回答数＞ 1,557サンプル
- ＜実施期間＞ 本調査：2020年3月12日（木）～2020年3月26日（木）
- ＜実施機関＞ 株式会社マクロミル

※調査結果は、端数四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

■本資料に掲載のデータ、図版等の無断転載を禁じます。資料のご利用やご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社マイナビ 社長室 HRリサーチ部 アルバイトリサーチチーム

E-mail : myArm@mynavi.jp

調査手法	インターネット調査（本調査）																																																															
標本抽出 （対象者条件）	・対象：4年制大学卒もしくは大学院卒者のうち、社会人歴3年以内の正社員 ・年齢：																																																															
エリア	全国																																																															
回収数	<table> <tr> <th></th><th>n</th><th>1年目</th><th>2年目</th><th>3年目</th></tr> <tr> <td>全体</td><td>1562</td><td>493</td><td>514</td><td>555</td></tr> <tr> <td>北海道</td><td>114</td><td>34</td><td>33</td><td>47</td></tr> <tr> <td>東北</td><td>147</td><td>45</td><td>51</td><td>51</td></tr> <tr> <td>関東</td><td>324</td><td>104</td><td>109</td><td>111</td></tr> <tr> <td>甲信越</td><td>95</td><td>21</td><td>36</td><td>38</td></tr> <tr> <td>北陸</td><td>76</td><td>19</td><td>23</td><td>34</td></tr> <tr> <td>東海</td><td>172</td><td>60</td><td>56</td><td>56</td></tr> <tr> <td>関西</td><td>255</td><td>97</td><td>80</td><td>78</td></tr> <tr> <td>中国</td><td>130</td><td>35</td><td>46</td><td>49</td></tr> <tr> <td>四国</td><td>90</td><td>28</td><td>25</td><td>37</td></tr> <tr> <td>九州</td><td>159</td><td>50</td><td>55</td><td>54</td></tr> </table> （サンプル）					n	1年目	2年目	3年目	全体	1562	493	514	555	北海道	114	34	33	47	東北	147	45	51	51	関東	324	104	109	111	甲信越	95	21	36	38	北陸	76	19	23	34	東海	172	60	56	56	関西	255	97	80	78	中国	130	35	46	49	四国	90	28	25	37	九州	159	50	55	54
	n	1年目	2年目	3年目																																																												
全体	1562	493	514	555																																																												
北海道	114	34	33	47																																																												
東北	147	45	51	51																																																												
関東	324	104	109	111																																																												
甲信越	95	21	36	38																																																												
北陸	76	19	23	34																																																												
東海	172	60	56	56																																																												
関西	255	97	80	78																																																												
中国	130	35	46	49																																																												
四国	90	28	25	37																																																												
九州	159	50	55	54																																																												
設問ボリューム	本調査：61問																																																															

1. はじめに

- 1-1. 大学生アルバイトにおける課題と調査目的
- 1-2. 22卒 新卒採用見込み
- 1-3. コロナ禍によりWEBインターンシップは拡大
- 1-4. インターンシップのWEB化による学生の成長機会損失
- 1-5. アルバイトの目的は“経験”
- 1-6. 就活時の自己PRとしてアルバイト経験は最も活用されている
- 1-7. 学生は就職活動を意識してアルバイト・アルバイト探しをしている
- 1-8. どのようなアルバイトであれば学生の“成長”につながるのか

2. サマリー

3. データ編

- 3-1. 社会人基礎力の向上・キャリア観の醸成について
- 3-2. 「社会人基礎力の向上」につながるアルバイトは
- 3-3. 「キャリア観の醸成」につながるアルバイトは
- 3-4. 学生の“成長”と企業メリット

1. はじめに

1-1. 大学生アルバイトにおける課題と調査目的

アルバイトの課題と調査目的

新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、新卒採用の売り手市場は弱まりつつある。また2022年卒のインターンシップについても課題が残る中でWEB化を進めているケースや、スケジュールの後ろ倒し等により**本来インターンシップで期待される「キャリア観醸成や社会人基礎力の向上」といった成長機会の損失が危惧される。**

一方で大学生におけるアルバイトは広く浸透しており、就職活動時の自己PRとして最も活用されている。また大学生はアルバイトに対して、収入面以外に「社会経験を積む」ことを望んでいることが分かっている。**しかし多くの大学生アルバイトは、労働力として指示通りに業務をこなしているケースが多い。**

そこで以下2点について検証していく

- ①どのようなアルバイトであれば、インターンシップで期待される成長（社会人基礎力向上・キャリア観醸成）につながるのか
- ②アルバイトを通じて、インターンシップで期待される成長を促すことによる企業側のメリットはあるのか

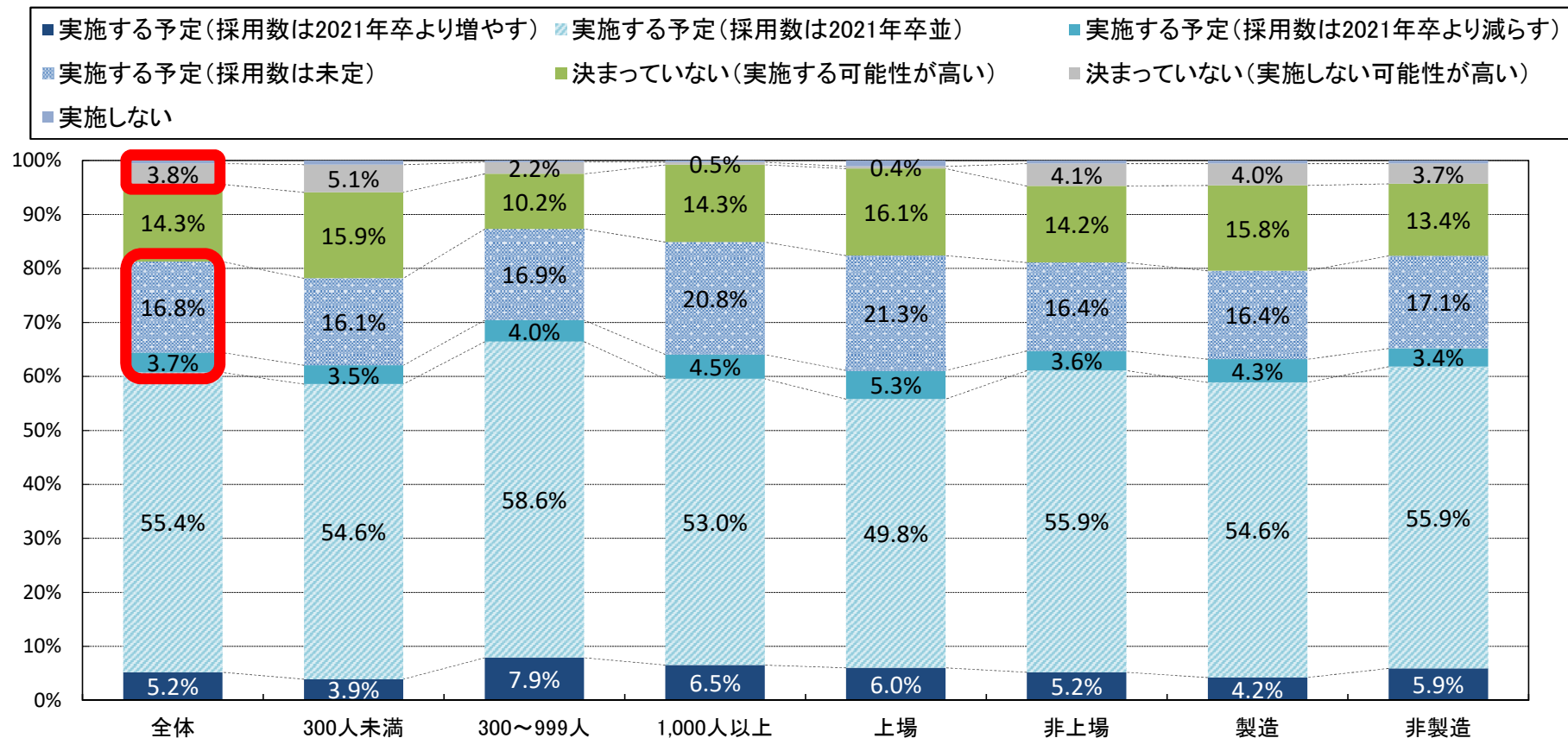
本調査では『**どのようなアルバイトであれば学生の“成長”を促し、かつ企業のメリットにつながるのか**』を明らかにする。

1-2. 22卒 新卒採用見込み

22卒の新卒採用は売り手市場が弱まりつつある。

22卒の新卒採用予定(6月時点)について、2割強が「採用数を減らす(実施しない+決まっていない(採用しない可能性が高い))+実施する予定(採用数は未定)+実施する予定(採用数は2021年卒より減らす)の合計」と回答。

<2022卒新卒採用予定(2020年6月時点)>

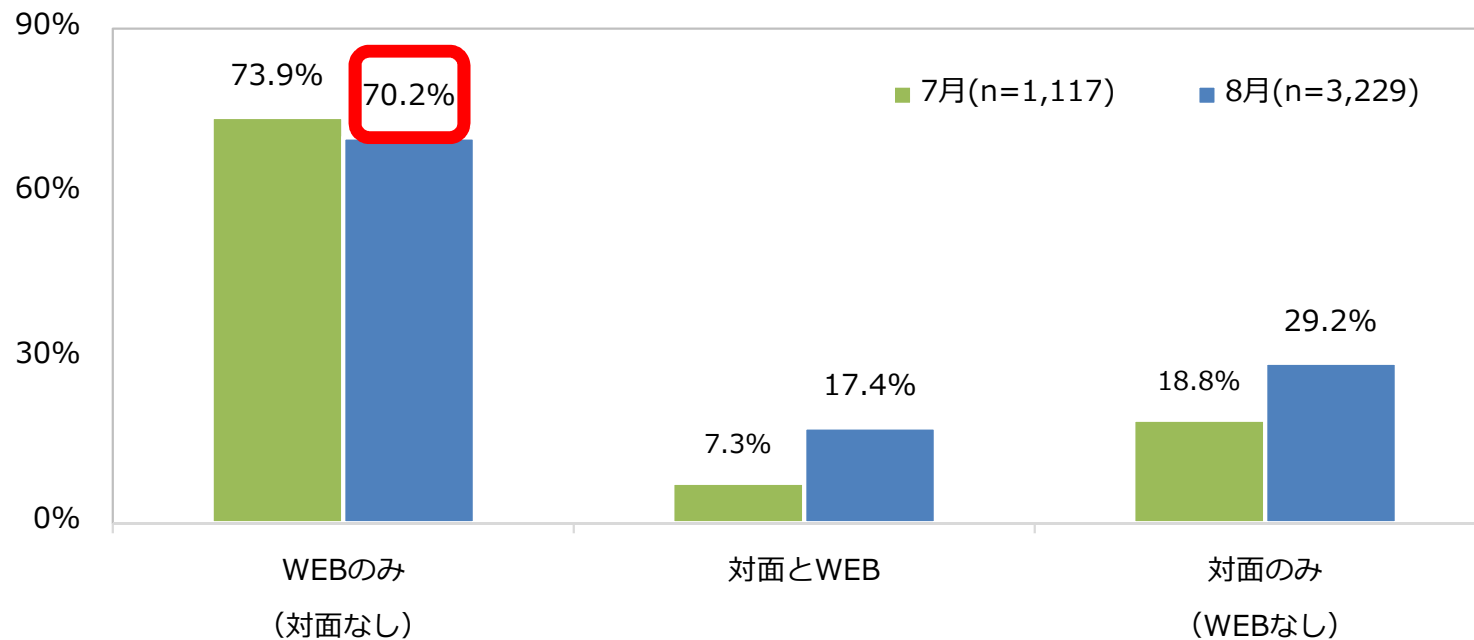


1-3.コロナ禍によりWEBインターンシップは拡大

2022年卒学生のインターンシップ参加者のうち、約7割はWEBインターンシップを経験。

新型コロナウイルス感染拡大を契機に、今年はオンラインのインターンシップが広がりを見せている。

【インターンシップ参加者】 参加したインターンシップの開催形式（複数回答）

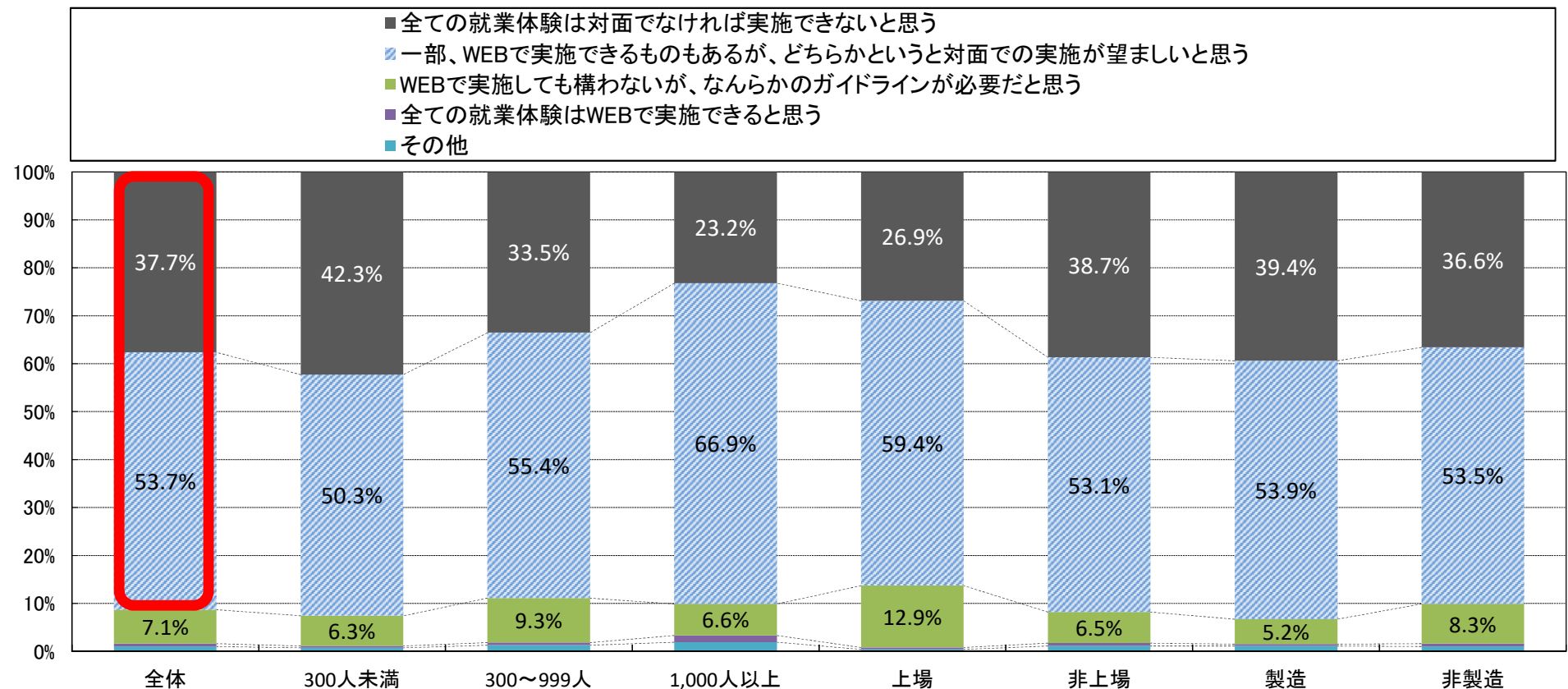


1-4.インターンシップのWEB化による学生の成長機会損失

インターンシップの全面的なWEB化への賛成意見は全体の1割未満。

WEB上でのインターンシップについては全面的なWEB化への賛成意見（「WEBで実施しても構わないが、なんらかのガイドラインは必要だと思う」＋「全ての就業体験はWEBで実施できると思う」の合計）は1割未満と少なく、限定的な利用を望む声が多い。本来インターンシップで得られる経験や成長の機会損失が懸念される。

<WEBで実施するインターンシップへの考え方>



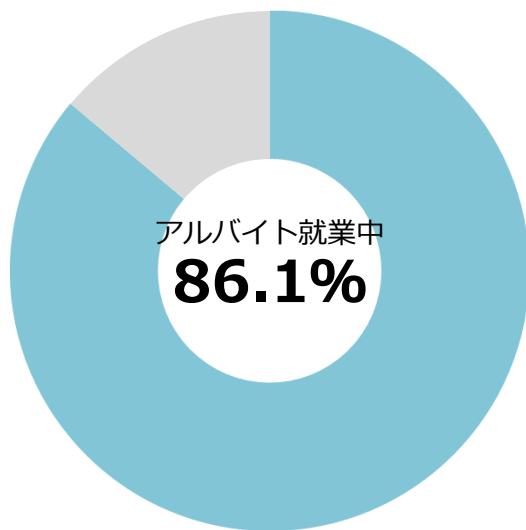
1-5. アルバイトの目的は“経験”

大学生のアルバイト就業率は8割超。
収入を除くアルバイトの目的は“社会経験”

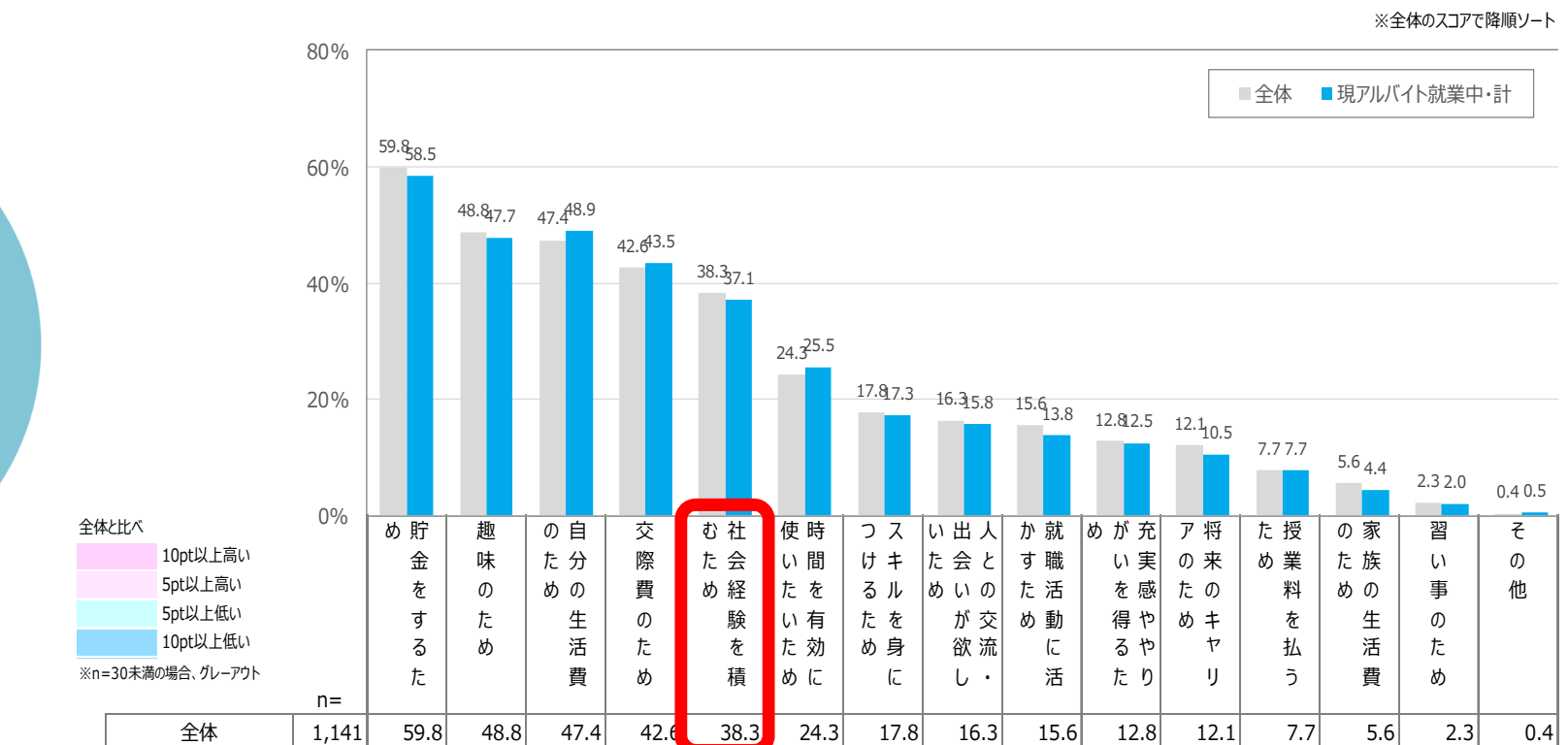
大学生がアルバイトをする目的は収入面以外に「社会経験を積むため」。

<アルバイト就業率>

<アルバイトの目的>



全体と比べ
 10pt以上高い
 5pt以上高い
 5pt以上低い
 10pt以上低い
 ※n=30未満の場合、グレーアウト



出典：「平成30年度学生生活調査結果」

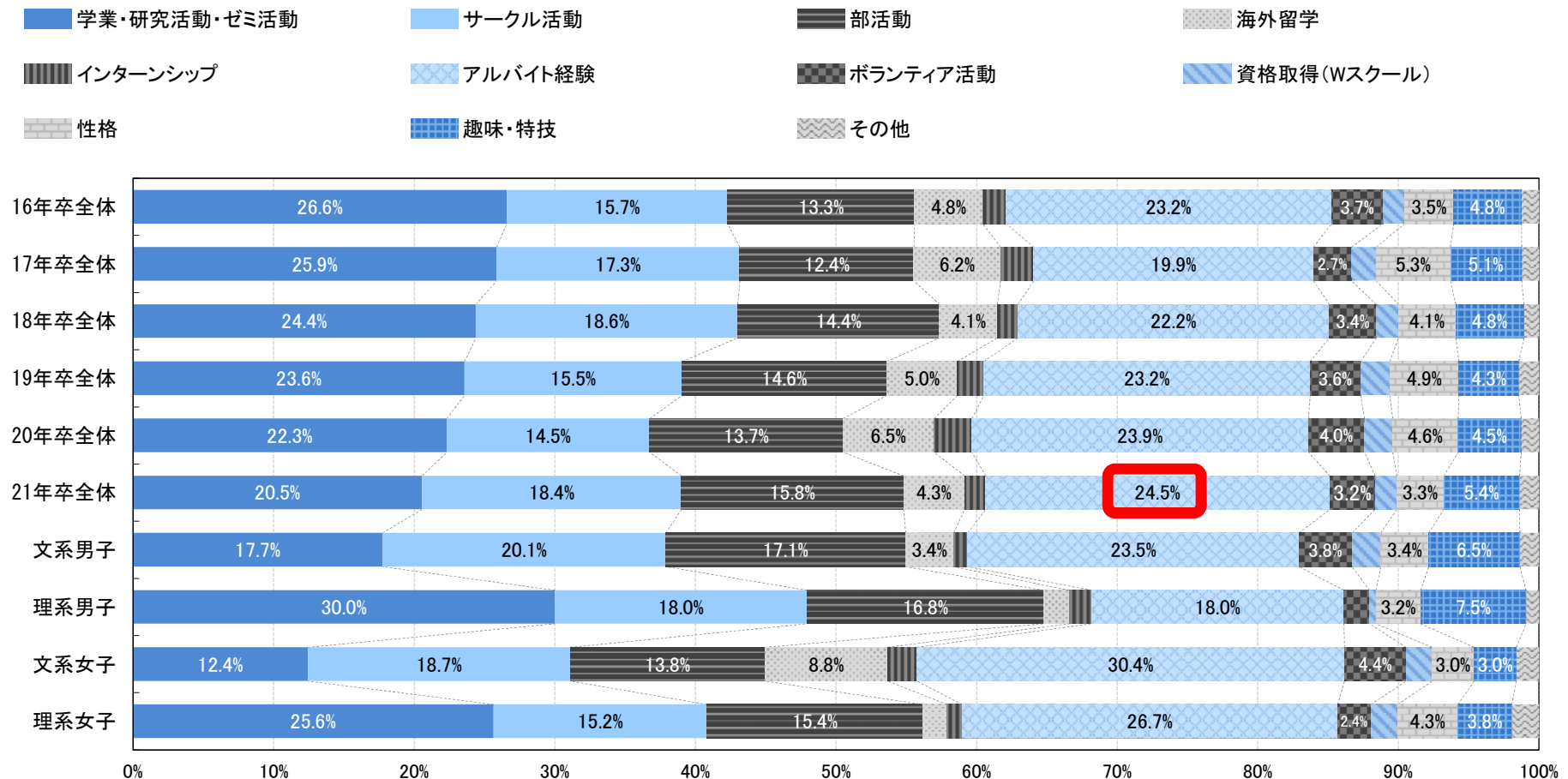
出典：マイナビ「マイナビ 2020年大学生のアルバイト実態調査」

1-6.就活時の自己PRとしてアルバイト経験は最も活用されている

就活時の自己PRとしてアルバイト経験は最も活用されている。

就職活動の自己PRでメインで使ったエピソードとして「アルバイト経験」とする割合は24.5%と最も高い。学生にとってアルバイトは社会との貴重な接点であることが窺える。

<就職活動の自己PRでメインで使ったエピソード>

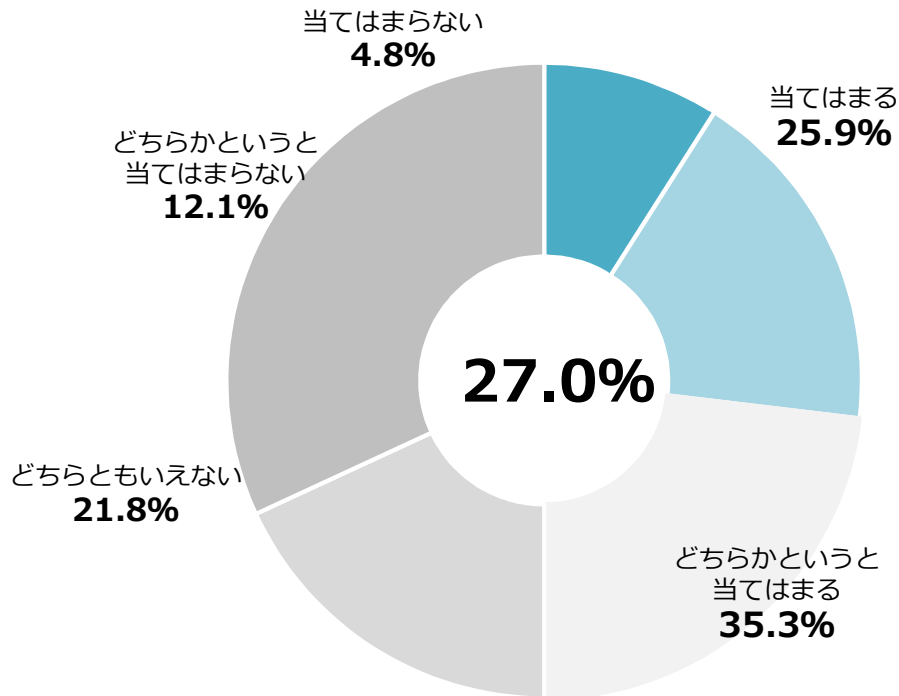


1-7.学生は就職活動を意識してアルバイト・アルバイト探しをしている

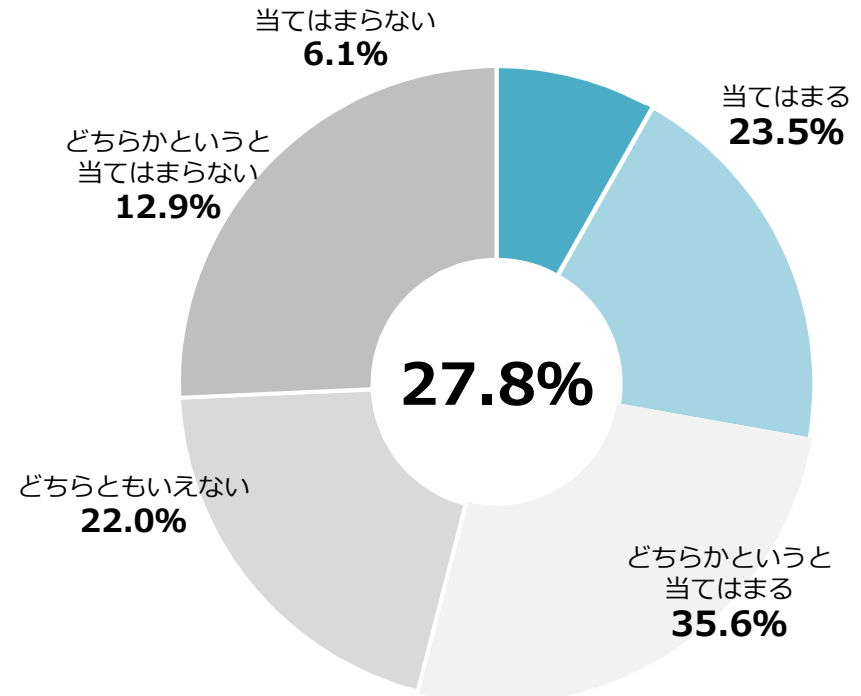
大学3年生のアルバイト就業者のうち、 4人に1人は就職活動を意識したアルバイト・アルバイト探しをしている

大学3年生のアルバイト就業者のうち、4人に1人以上が「アルバイト探しの際に就職活動を意識した」「就職活動を意識してアルバイトをしている」と回答。学生自身もアルバイトと就職活動のつながりを認識している。

<アルバイト探しで就活を意識した>



<就活を意識してアルバイトをしている>



1-8.どのようなアルバイトであれば学生の“成長”につながるのか

どのようなアルバイトであれば、インターンシップで期待される
成長（「社会人基礎力向上」や「キャリア観醸成」）につながるのかを検証

アルバイト

?

社会人
基礎力(※)

■ 考え抜く力（シンキング）

疑問を持ち、考え抜くことができるようになった

■ チームで働く力（チームワーク）

多様な人々と共に、目標に向けて協力することができるようになった

■ 前に踏み出す力（アクション）

一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができるようになった
物事に進んで取り組むようになった

キャリア観

■ 職業適性

自分に合う仕事・合わない仕事など職業適性がわかった

■ 仕事理解

その仕事で必要とされるスキルや知識がわかった

■ 就労意欲

「仕事・働くこと」に対する意欲が高まった

■ 自己理解

自分の長所・短所がわかった

■ キャリアの焦点化

やりたい仕事や業界・企業のイメージが明確になった

■ キャリアの展望化

興味のある仕事や業界・企業の幅が増えた・広がった

■ 人的ネットワーク

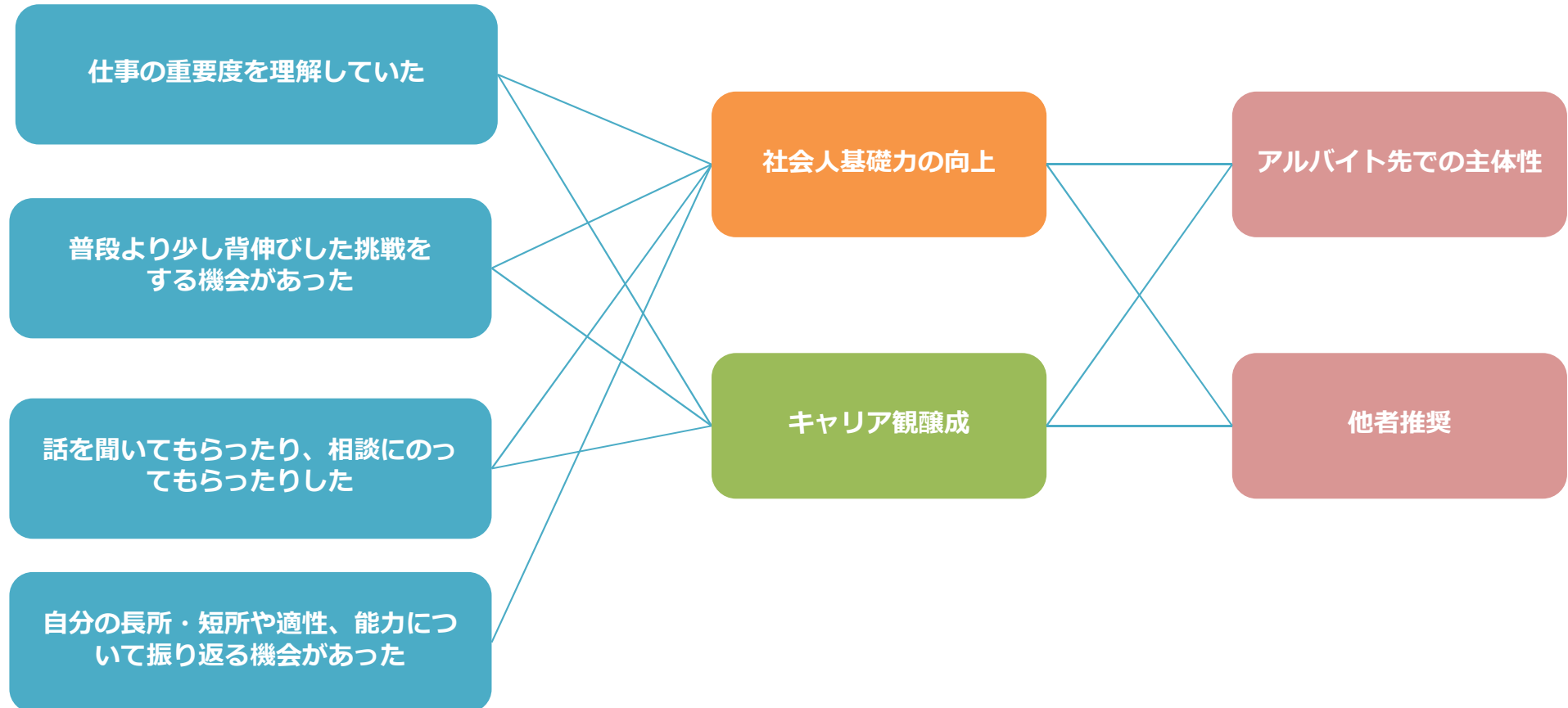
就職活動をする上で、周りの人に相談をしたり援助を求めていると思った

2. サマリー

大学生の成長(社会人基礎力の向上・キャリア観の醸成)につながるアルバイトは「**仕事重要度理解・挑戦機会・サポート・振り返り機会**」の4つのポイントを押さえたアルバイトである。

また大学生の成長はアルバイト先での主体性・他者推奨意向と正の相関があり、**大学生の成長を促すことで企業メリットとの相乗効果が期待できる。**

<学生の成長への効果が期待できるアルバイト4要素>



① 社会人基礎力を高めるアルバイトのポイント

- (a)仕事の重要度を理解してもらうこと
- (b)普段より少し背伸びした挑戦をする機会を与えること
- (c)何か問題に当たった際に、話を聞いたり、相談にのること
- (d)学生の長所・短所や適性・能力について振り返る機会をつくること

⇒学生の社会人基礎力を高めるには、「仕事の重要度理解」と「挑戦する機会」、課題・問題にあたった際の情緒面における「サポート」、学生自身の能力や適性を客観的に把握することのできる「振り返り機会」が必要である。

② キャリア観醸成を促すアルバイトのポイント

- (a)仕事の重要度を理解してもらうこと
- (b)普段より少し背伸びした挑戦をする機会を与えること
- (c)何か問題に当たった際に、話を聞いたり、相談にのること

⇒学生のキャリア観醸成を促すには、「仕事の重要度理解」と「挑戦する機会」、課題・問題にあたった際の情緒面における「サポート」が必要である。

学生の成長（社会人基礎力向上・キャリア観醸成）を促すことによる企業メリット

- ①社会人基礎力の向上とアルバイト先での主体性・他者推奨意向はそれぞれ正の相関あり
- ②キャリア観醸成とアルバイト先での主体性・他者推奨意向はそれぞれ正の相関あり

⇒アルバイト現場における学生の社会人基礎力向上・キャリア観醸成は、「アルバイト先での主体性」「他者推奨意向」と正の相関があり、企業メリットとの相乗効果が期待できる。

3. データ編

3-1.社会人基礎力の向上・キャリア観の醸成について

社会人の基礎となる「社会人基礎力の向上」、就職活動に影響する「キャリア観醸成」につながるアルバイトの特徴を探る。「キャリア観醸成」は入社志望度向上にもつながるとされている（マイナビIS調査より）

社会人 基礎力(※)

■ 考え抜く力（シンキング）

疑問を持ち、考え抜くことができるようになった

■ チームで働く力（チームワーク）

多様な人々と共に、目標に向けて協力することができるようになった

■ 前に踏み出す力（アクション）

一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組むことができるようになった
物事に進んで取り組むようになった

キャリア観

■ 職業適性

自分に合う仕事・合わない仕事など職業適性がわかった

■ 仕事理解

その仕事で必要とされるスキルや知識がわかった

■ 就労意欲

「仕事・働くこと」に対する意欲が高まった

■ 自己理解

自分の長所・短所がわかった

■ キャリアの焦点化

やりたい仕事や業界・企業のイメージが明確になった

■ キャリアの展望化

興味のある仕事や業界・企業の幅が増えた・広がった

■ 人的ネットワーク

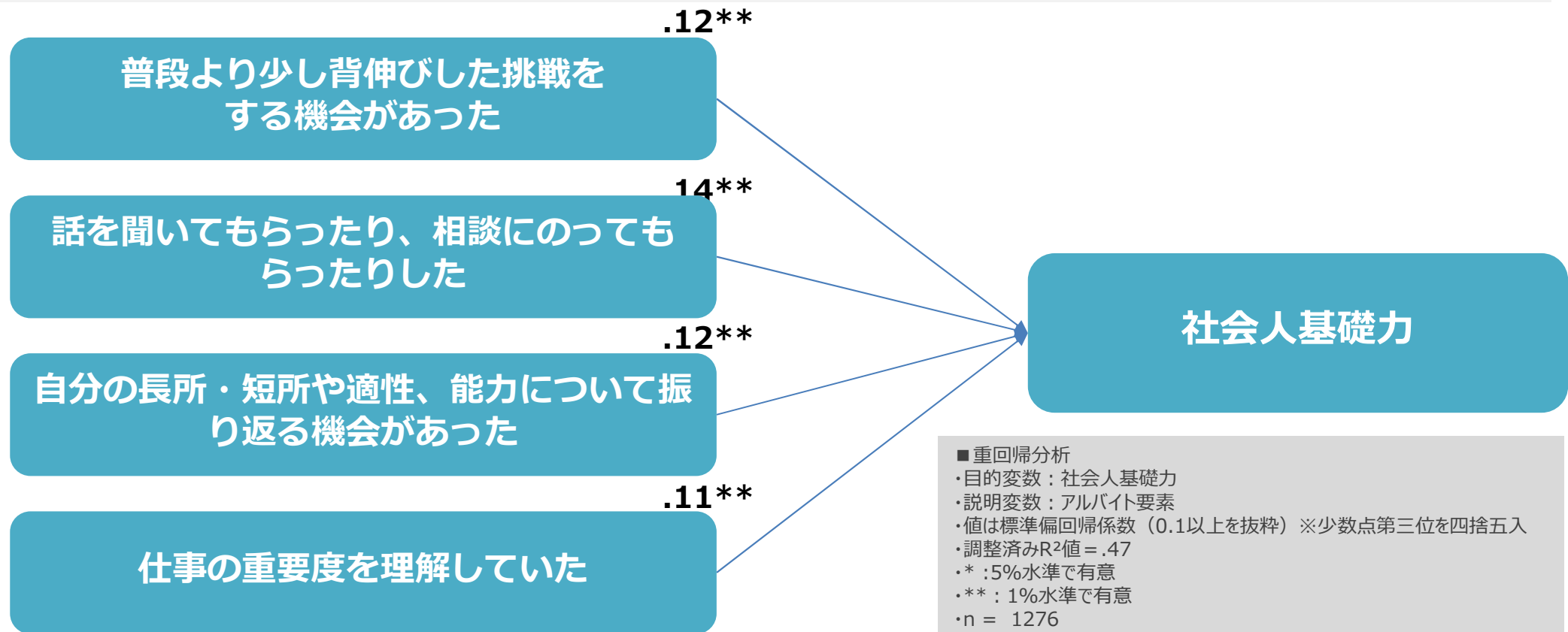
就職活動をする上で、周りの人に相談をしたり援助を求めていると思った

入社志望度向上

3-2. 「社会人基礎力の向上」につながるアルバイトは

「社会人基礎力の向上」と「アルバイト要素」の関係

「社会人基礎力の向上」には「普段より少し背伸びした挑戦をする機会があったこと」「話を聞いてもらったり、相談にのってもらったりしたこと」「自分の長所・短所や適性、能力について振り返る機会があったこと」「仕事の重要度を理解していたこと」が有意に影響。



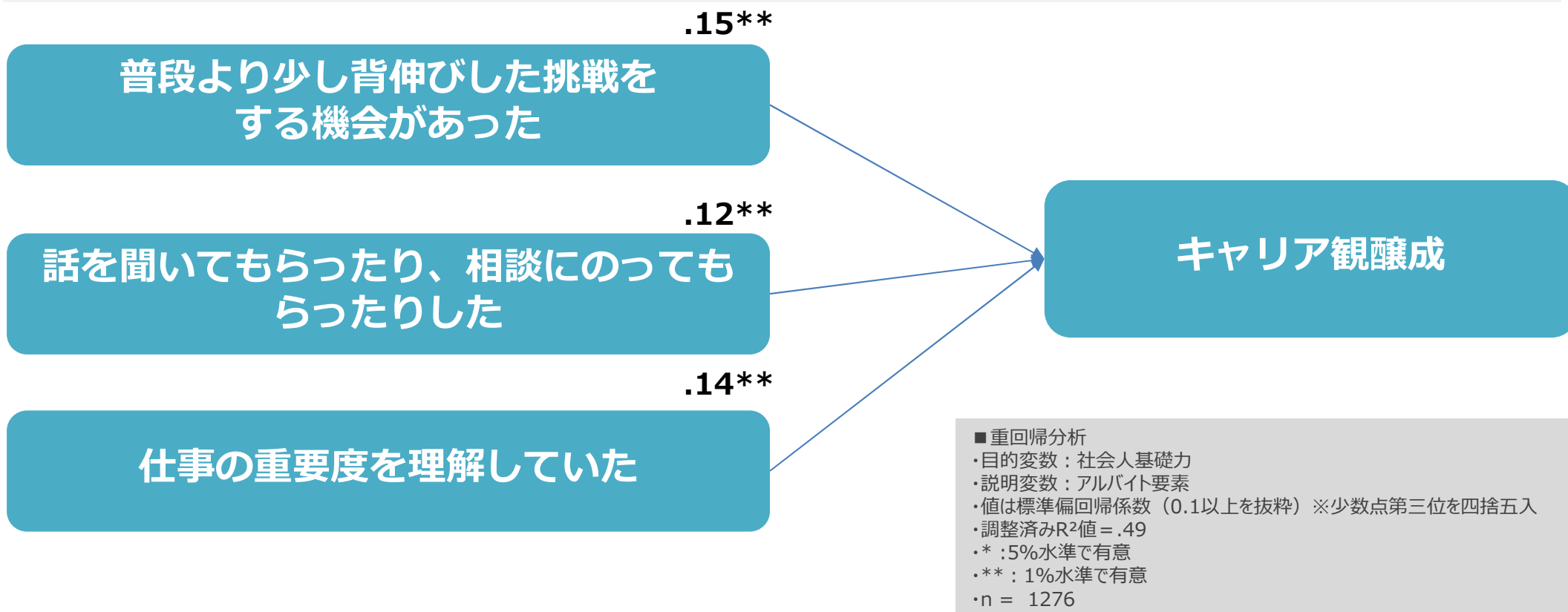
「社会人基礎力の向上」：最も影響を受けたアルバイト経験を経て自身に生じた以下変化を聴取し、主成分分析ののち第一因子のみを分析対象とした。

- ・「一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む」ことができるようになった
- ・「疑問を持ち、考え抜く」ことができるようになった
- ・「多様な人々と共に、目標に向けて協力する」ことができるようになった
- ・「物事に進んで取り組む」ようになった

3-3. 「キャリア観の醸成」につながるアルバイトは

「キャリア観醸成」と「アルバイト要素」の関係

「キャリア観醸成」には「普段より少し背伸びした挑戦をする機会があったこと」「話を聞いてもらったり、相談にのってもらったりしたこと」「仕事の重要度を理解していたこと」が有意に影響。



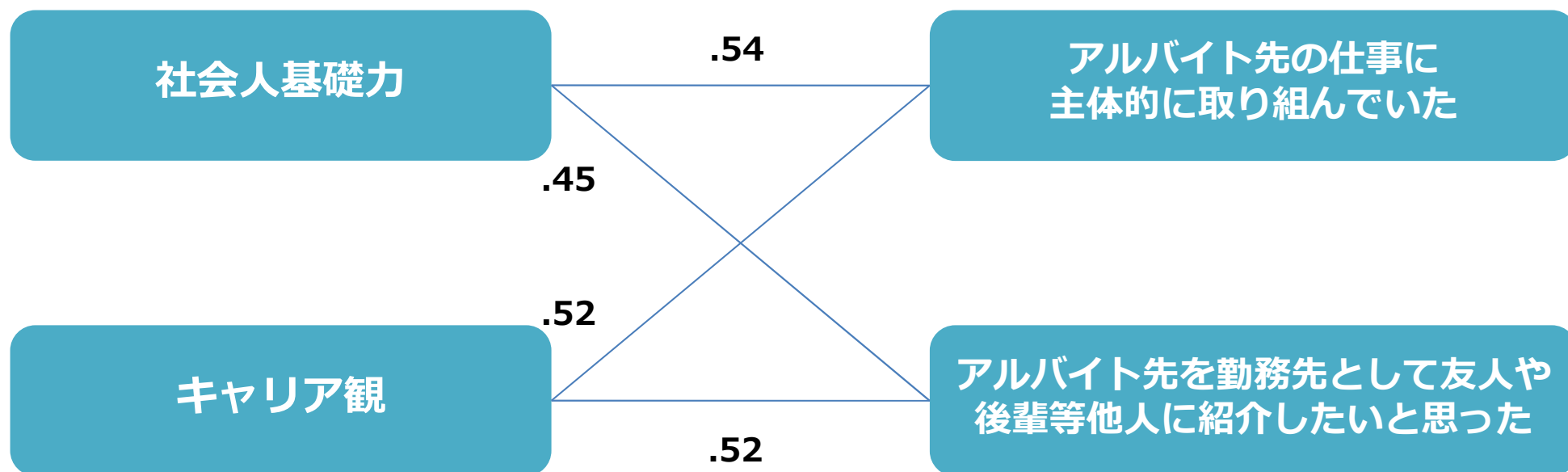
「キャリア観醸成」：最も影響を受けたアルバイト経験を経て自身に生じた以下変化を聴取し、主成分分析ののち第一因子のみを分析対象とした。

- ・自分に合う仕事・合わない仕事など、職業適性が分かった
- ・その仕事で必要とされるスキルや知識が分かった
- ・「仕事・働くこと」に対する意欲が高まった
- ・自分の長所・短所が理解できた
- ・やりたい仕事や業界・企業のイメージが明確になった
- ・興味のある仕事や業界・企業の幅が増えた・ひろがった
- ・就職活動をする上で、周りの人に相談をしたり援助を求めていると思った

3-4.学生の“成長”と企業メリット③

社会人基礎力向上・キャリア観醸成と「アルバイト先での主体性」「他者推奨意向」の関係

「社会人基礎力の向上」「キャリア観醸成」は「アルバイト先での主体性」「他者推奨意向」と正の相関がある。
学生をの成長を促すアルバイトは、アルバイト先企業にとってのメリットにもつながることが示された。



■相関分析

- ・変数：社会人基礎力・キャリア観・主体性・他者推奨意向
- ・値は相関係数※少数点第三位を四捨五入
- ・n = 1276